

メーサイ高校のタン君、ミルちゃん いつまでも忘れないで



4月7日にタイ・メーサイ市から来結したメーサイ高校2年のパンヌボン・タデック君(18)ことタン君とチラッティカン・ケウタさん(16)ことミルちゃんが1日、結城一高で最後の高校生活を迎えました。生徒主催のお別れ会が開かれ、約1カ月間の日本での高校生活を振り返り、級友たちとゲームなどで楽しみました。

メーサイ市と結城市は、国際親善姉妹都市締結を記念し、昨年度から茨城国際親善厚生財団(IIFF)の青少年交流事業としてメーサイ高校と結城一高の生徒を派遣し、交流を深めています。タン君とミルちゃんは、8日から結城一高に通い、2年4組でクラスメートと楽し

い学校生活を送ってきました。

1日に開かれたお別れ会では、フルーツバスケットやいすとりゲーム、ハンカチ落としと、日本でおなじみのゲームを楽しみました。

ゲームのあと2人は、クラスメート全員で作った2人の似顔絵を描いたちぎり絵を贈られました。

クラスメートから「短い間ですが、楽しく過ごしました。明日からいなくなると思うときびしい。2人のことは忘れない。タイに戻っても元気で、いつか会えると思っ

日本で1カ月の高校生活



ています」と日本語と英語で言葉を贈られました。タン君は「2年4組と過ごした日々は忘れない。たくさんの思い出をありがとう」、ミルちゃんは「短い間でしたが、友達になれてありがとう。日本で学んだことをタイで生かしたい。私たちを忘れないでください」と、きれいな日本語でお礼の言葉を返しました。

授業では「数学と書道が面白かった。数学はタイより難しかった」と語る2人。2年4組の松澤佑君は「英語が苦手であり話せなかったが、2人は桜の絵が上手で驚いた。日本で学んだ知識をタイで生かしてほしい」と送り出しました。

結城一高の寺内眞由美校長は「タイの高校生の表情がとてもよく、なんでも学ぶという姿で生徒たちに溶け込んでいました。夏休みにはタイに生徒2人を派遣する予定です」と話していました。

平成26年5月1日

